

早稲田大学 人間科学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	「もし該当するものがなければ、力をマークせよ」とあるせいで、難易度が非常に高まっている。この形式だと消去法が使えずに時間がかかり、それに足を取られると最後の問題まで解ききれなくなってしまう。実際、大問 に手こずった人が多かったのではないだろうか。試験中に焦り出すと、簡単な問題でもミスが増えてしまう。入試直前期には、時間配分を気にしながら解く練習をしておくべきだということを痛感させられる問題であった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	古代の史料	難問は問4・8。どちらも消去法が使えれば解けるだろうが、そうでないために難問化している。	標準
	中世の雑題	もっとも解きやすい大問であった。難問は問12のみ。といっても文化史をおろそかにしていた人には易しくなかっただろう。実は意外と点差がつく問題だったのではないだろうか。	易
	中世・近世の都市	江戸時代の細々としたことを、相当正確に覚えていないと正解できない問題が目立つ。しかも「カ(該当するものがない)」を正解としている問題も多く、油断するとこの大問に時間を大きく取られてしまいかねない。	難
	明治・大正時代の雑題	難問は問9のみ。問12を下線部の「民本主義」に引きずられて「ア(吉野作造)」と答えてしまった人は勇み足であった。設問をよく読もう。受験日本史が用語暗記だけでは解けないことがわかるだろうか。時期と分野の整理が欠かせないのである。	易
	古代～現代の自然環境と人間の関わり	早稲田では備えておくべきテーマからの出題であったが、消去法が使えないため難問が目立った。特に難しいのは問4・14。	やや難